

平成22年度木のまち整備促進事業 採択プロジェクト一覧

(別紙)

No	補助種別	プロジェクト名称	建設地	提案者(建築主)	提案の概要
1	木造化	地域病院建築事業 (川湯の森病院新築工事)	北海道 川上郡 弟子屈町	医療法人共生会 理事長 齋藤 浩記	木造の病室をRC造コアでつなぐことにより、延べ面積3,000㎡超の大規模木造を実現する計画。水平力を主としてRCコア部分に負担させることによって、一般的に流通している120mm角を主な部材とした、開放的で自由度の高い空間を計画。また、RC造コア部分に階段等が内包され、万一の場合は、避難・消防活動の拠点にもなるように工夫されている。
2	木造化	既存の木造住宅建築の技術を応用した、中規模木造建築物の生産システムの確立	茨城県 つくば市	株式会社インテグラル 代表取締役 柳澤 泰男	2方向木質ラーメン構造を採用した3階建て事務所ビル。既存の木造住宅にも用いる中断面集成材や金物を利用した中規模木造建築に取り組み計画であり、そのための技術面の調査・試験を行うなど、同種の中規模木造建築の生産システムの確立を目指す。
3	木造化	(仮称)ポラテックビル 新築工事	埼玉県 越谷市	ポラテック株式会社 代表取締役 中内 晃次郎	長野県佐久地方のカラマツを用いた木質ハイブリッド集成材を主要構造部に「あらわし」として採用した事務所ビル。木質ハイブリッド耐火構造としては3例目で、規模は最大。同構造の施工に関し課題となっている、部材の接合部等の仕様について、同種構造のモデルとなることが期待される。
4	木造化	2×4木造耐火構造による暮らし継ぐ3世帯4階建住宅	東京都 千代田区	(個人)	ツーバイフォー工法による耐火構造4階建て住宅で、I型複合梁による耐火構造床を採用。狭小地での施工を可能とする建て起こし工法を採用することにより、都市内の狭小、防火地域における木造中層住宅の普及促進につながるものと期待される。
5	木造化	大田区矢口木造老人ホーム プロジェクト	東京都 大田区	有限会社円宿 代表取締役 北嶋富美子	東京都区内における初のツーバイフォー工法による耐火構造3階建て有料老人ホーム。不燃木材により外装を木質化するほか、被覆系耐火構造でありながら、内装にも積極的に木製部材(国産材)を活用。避難にも利用可能なバルコニーの設置等、高齢者施設として防災計画にも配慮されている。
6	木造化	下馬の集合住宅プロジェクト	東京都 世田谷区	(個人)	1階を2時間耐火のRC造、2～5階を1時間耐火の木造とした集合住宅。床スラブとして、スギ集成材を直交積層させた重厚なパネル「マッシュホルツ」を採用。これにより、梁のない構造となり、梁の耐火認定が不要になるなど、構造と防火を連動させた設計上の工夫が見られる。
7	木造化	地域密着型小規模特別養護老人ホーム 笠木メジロ苑建設工事	三重県 多気郡 多気町	社会福祉法人 笠木御所桜会 理事長 岡井 功	準耐火45分の丸太組構法建築物の実例はこれまでに例が少なく、特別養護老人ホームでは初めてのケース。特別養護老人ホームでは介護用機械等の配線が多く、処理に工夫が求められるが、壁内の空間確保が困難な丸太組構法を採用する点にチャレンジ性が見られ、丸太組構法の一般的な建築物への適用のモデルとなることが期待される。
8	木造化	ハートホーム宮野増築工事	山口県 山口市	社会福祉法人青藍会 理事長 阿武 義人	ツーバイフォー工法に比べ普及が遅れている木造軸組工法による耐火構造を採用した特別養護老人ホーム。延べ面積3,000㎡超の木造軸組の耐火構造として、国内最大規模の計画となる。地場産の木材を多く使い、木の暖かみのある、これからの老人福祉にふさわしい施設を計画。
9	木造化	ツーバイフォー木造耐火構造による3階建て特別養護老人ホーム	香川県 仲多度郡 多度津町	社会福祉法人善心会 理事長 前田 隆史	ツーバイフォー工法による耐火構造3階建ての大規模な特別養護老人ホーム。I型複合梁による耐火構造床の採用のほか、スタッド(縦柱)に国産材(集成材)を利用することとしており、ツーバイフォー工法への国産材利用のモデルとなることも期待される。
10	木質化	(仮称)港区立港南四丁目 公益施設新築工事	東京都 港区	東京都港区長 武井 雅昭	港区における環境に配慮した施設整備の一環として計画されている複合公益施設。準不燃・不燃処理を施した内装部材を、法規による制限範囲の限界近くまで積極的に使用している。一般の目に触れる機会が多く、都心部における建築物の木質化のモデルとなることが期待される。